

平成 28 年度
(2016 年度)

「運営に関する計画」

(最終評価)

「学校関係者評価」

大阪市立矢田西中学校
平成 29 年 2 月

— 学校教育目標 —

人間尊重の精神を基盤として、生徒一人一人を見つめる中で、
教育内容の充実を図り、保護者・地域の信頼に応える教育を
すすめる。

(1) 今年度組織目標

確かな学力や道徳心・社会性、健康・体力など、一人一人の子どもに
とって将来の自立に必要な力の育成に努める。

(2) 重点目標

- ① 教職員一人一人が授業力の向上に努め、生徒の学習に対する理解や興味関心の向上をめざす。
- ② ともに育つ地域・校種間連携をめざす。
- ③ 人権尊重の精神を基盤とする豊かな感性を育む。
- ④ キャリア教育を推進し、望ましい職業観を育み、生徒一人一人の進路希望の実現をめざす。
- ⑤ 人と人との「つながり」を大事にした、前向きで活動的な学校文化をめざす。
- ⑥ 礼儀を重んじ、基本的生活習慣を身に付け、社会規範意識の向上を図る。
- ⑦ 健康の保持・増進および体力の向上をめざす。

大阪市立矢田西中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面では、学校の落ち着きとともに、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、徐々に効果が表れつつあるものの、まだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合が多い。また、家庭での生活習慣のあり方などでは課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、より効果的な指導を目指して指導法を深化させる必要がある。また、継続して、生徒に基本的生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、生徒の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

中期目標

【視点 学力の向上】

○平成28年度の全国学力・学習状況等調査や大阪府チャレンジテストにおける平均正答率で、大阪府平均を上回る。
(カリキュラム改革関連)

○平成28年度の校内アンケート調査で「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
(マネジメント改革関連)

○平成28年度の校内アンケート調査で「家庭学習の習慣ができている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成28年度の校内アンケート調査で「楽しい学校生活を過ごしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○平成28年度の校内アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○平成28年度の校内アンケート調査で「学校内のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成28年度の校内アンケート調査で「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、全国平均を上回る。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成28年度の全国学力・学習状況等調査や大阪府チャレンジテストにおける平均正答率で、大阪府平均との比率（対府比）が前年より上回る。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成28年度の校内アンケート調査で「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (マネジメント改革関連)
- ③ 平成28年度の校内アンケート調査で「家庭学習の習慣ができている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成28年度の校内アンケート調査で「楽しい学校生活を過ごしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成28年度の校内アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 平成28年度の校内アンケート調査で「学校内のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (マネジメント改革関連)
- ④ 平成28年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく充実している」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成28年度の校内アンケート調査で「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ② 平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、全国平均を上回る。 (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

全国学力・学習状況調査の平均正答率の対府比は、国語A0.98（昨年度 0.96）、国語B1.01（昨年度 0.98）、数学A1.00（昨年度 0.94）、数学B1.00（昨年度 0.85）となり、いずれも昨年度より上回った。大阪府チャレンジテスト3年の対府比は、国語 0.97、社会 1.02、数学 0.98、理科 0.91、英語 0.89、平均 0.96 で、昨年の2年の対府比（国語 0.95、社会 0.96、数学 1.00、理科 0.86、英語 0.90、平均 0.94）と比べると、国語・社会・理科で昨年度を上回り、平均で 0.02% 上回った。しかし英語では府平均を 6 ポイント以上下回っており、英語力向上を図る必要がある。

校内アンケートで「授業がよくわかる」と肯定的に回答する生徒は 75% で、昨年度の 81.5% から後退したが、3年チャレンジテストのアンケートの「教科の授業の内容がわかる」で肯定的回答した生徒は、国語 85%、数学 87.5%、理科 92.5% であった。一方で校内アンケートの「意見をまとめたり、発表したりする機会が多い」で肯定的回答が 56% にとどまり、全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの質問紙調査でも授業形態の工夫や改善の必要性が浮かび上がっている。

校内アンケートの「家庭学習の習慣が身についている」で肯定的回答が 46% にとどまった。家庭学習を習慣づける取り組みの必要がある。

【視点 道徳心・社会性の育成】

校内アンケートの「学校生活は楽しい」で肯定的回答が 79% で 8 割を切り、昨年の「学校生活はどちらかと言えば楽しい」の 89% より下がった。質問の仕方が変わったことも影響していると考えられるが、88% が「学校は落ち着いて安心して生活が送れる」と回答しており、行事だけでなく学習面での達成感を向上させることで、真に学校が楽しく思えるようにしていくなければならない。

校内アンケートの「学校内のきまりを守っている」では 96% に達した。その他「決められた服装を守っている」が 98%、「学校生活において時刻を守っている」が 94% になっており、規範意識は高いと考えられる。

校内アンケートの「体育大会や文化祭などの学校行事は充実している」で 93% が肯定的回答だった。また教科授業以外の人権、命、道徳、食育、健康、体力、防災等の取り組みについても 90% 以上が学ぶ機会があると回答しており、多面的な教育活動の成果があらわれている。しかし、「自分には自信のあることやよいところがある」の設問での肯定的回答は 61% にとどまっており、いろいろな取り組みや活動を通して、より自尊感情を高めていかなければならぬ。

【視点 健康・体力の保持増進】

全国体力・運動能力等調査では、合計点で男子は全国に及ばなかったが大阪府を上回った。女子は今年度も全国を上回った。男女の合計点の平均は 46.0 で全国の 45.8 を上回った。

校内アンケートで「朝食を食べている」の肯定的回答は 78% で 8 割を切った。各種生徒質問紙調査での同様の設問でも全国に比べてやや差がある。食育の取り組みを、家庭への啓発も含めてより一層推進していかなければならぬ。

大阪市立矢田西中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【視点 学力の向上】			
① 平成28年度の全国学力・学習状況等調査や大阪府チャレンジテストにおける平均正答率で、大阪府平均との比率（対府比）が前年より上回る。 (カリキュラム改革関連)	B		
② 平成28年度の校内アンケート調査で「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (マネジメント改革関連)	B		
③ 平成28年度の校内アンケート調査で「家庭学習の習慣ができている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	B		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】 言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組む。(カリキュラム改革関連)	B		
指標 読書習慣の育成のため、また教科学習・総合学習における情報センターとしての機能を十分に果たせるように、学校図書館を整備する。	B		
取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 指導法の改善に向けて、授業研究に積極的に取り組む。 (カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)	B		
指標 研究授業を全教員1回以上実施する。	B		
取組内容③【区分 小中一貫した教育の推進】 小中一貫したカリキュラムの点検・改善に取り組む。 (カリキュラム改革関連)	B		
指標 小中一貫教育実行委員会を年間2回開催し、点検・改善を行う。	B		
取組内容④-1【区分 各教科（国語）】 言語力向上の取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連)	B		
指標 自分の思いを表現し、文章化できるように作文指導を適宜実施する。	B		
取組内容④-2【区分 各教科（社会）】 基礎学力の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)	B		
指標 地図や資料、日々のニュースや新聞などを活用し、地理・歴史・公民の学習を進める。	B		
取組内容④-3【区分 各教科（数学）】 個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。 (カリキュラム改革関連)	B		
指標 補助教材の活用や問題の選別により、個に応じた指導を進める。	B		

取組内容④-4【区分 各教科（理科）】 基礎学力の定着を図る。	(カリキュラム改革関連)	B
指標 実験方法の創意工夫、理科室の整備及び実験器具の充実、教材の精選に努める。		
取組内容④-5【区分 各教科（音楽）】 音楽活動の基礎的な能力の伸長を図る。	(カリキュラム改革関連)	B
指標 音楽を表現するための基本的事項の習熟とその定着を図り、また合唱・合奏・鑑賞を多く取り入れる。		
取組内容④-6【区分 各教科（美術）】 美術の基礎的能力の伸長を図る。	(カリキュラム改革関連)	B
指標 形や色彩などによる表現の技能を身につけさせ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる指導を進める。		
取組内容④-7【区分 各教科（技術・家庭）】 基礎的な知識や基本的な技術の習得を図る。	(カリキュラム改革関連)	B
指標 実習や製作を必要に応じて取り入れる。		
取組内容④-8【区分 各教科（英語）】 基礎学力の定着を図る。	(グローバル化改革関連)	B
指標 T.T・少人数授業による細やかな指導により「聞く・話す・読む・書く」の4技能を重点的に伸ばす。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① 生徒、教職員から希望を募って図書購入をし、図書室の整備が進んだ。教科学習・総合学習時に図書室を利用する機会が増えた。		
取組内容② 予定通り、1学期に3年教職員、2学期に2年教職員による研究授業を行った。また、3学期には1年教職員による研究授業を行う予定である。授業参観シートを活用し、相互に授業力の向上を図った。また、小学校にも予定を伝え、実際に授業を参観してもらう機会を得た。		
取組内容③ 7月末に小学校との合同研修会を行い、カリキュラムの接続、学習評価、生徒指導上の実態交流を行い、次回の研修会（11月予定）の課題を明らかにした。		
取組内容④-1 1・2年生は1年間を通して単元ごとに初発の感想を書かせてきた。1年生では食べたときの食感を伝えるレポーターになりきってセリフを考える活動を行い、2年生では登場人物の友だちになりきって手紙を書く活動を行った。さまざまな取り組みを通して、「書く習慣」を身につけることをねらいとした。		
取組内容④-2 授業の導入などに日々のニュースなどを取り上げ関心を持たせ授業を進めた。小テストを実施したり、復習プリントを配布し学習することにより基礎学習の定着を図った。		
取組内容④-3 問題集を利用したり、生徒の学力にあわせたプリントを作成することで、反復することから基礎学力の定着を図った。		

- 取組内容④-4 実験・観察を多く行うことで、自然現象への興味・関心を高め、基礎学力の定着につなげることができた。また、昨年度に続き、理科室の整備も少しづつではあるが、進めることができた。
- 取組内容④-5 放課後や夏季休業中に補習なども行い、基礎的な演奏能力の定着に努めた。また2学期には授業内で、各クラスごとに合奏の発表会を行った。
- 取組内容④-6 学習の内容理解と成果のさらなる向上のため、ＩＣＴ機器を用いた指導や用具の改良、ワークシートや指導法の工夫などを積極的に行った。
- 取組内容④-7 1、2年生は前期・後期制としたことで、技術科と家庭科それぞれの指導を、より継続的に行うことができた。全ての学年において、技術科・家庭科ともに実習授業を行うことで、技術の定着に努めた。
- 取組内容④-8 各学年でT.Tによる授業を行い、基礎が定着していない生徒に対して単語・文法面をケアしつつ授業を進めた。文法の定着を重視する為に文法のWSを多く使用。特に1年生と2年生では定期的な単語テスト、単元テストを用いて単語、文法の定着を図った。また、アクティビティや音読などを通して発話活動を積極的に取り入れた。

次年度への改善点

- 取組内容① 図書室だよりを発行し、図書室に関する掲示物などを充実させて、読書活動を推進していく。学級文庫をもっと活用できるようにする。図書室利用者をもっと増やすために、今以上に多種多様な書籍の充実を図る。
- 取組内容② 研究討議の時間を設けることが少なかったので、次年度は実施できるように実施形態を工夫する。
- 取組内容③ 6年児童の体験に加え授業参観等を含めた情報交流等をさらに推し進める。
- 取組内容④-1 書くことへの抵抗はある程度取り扱うことが出来たようであるが、文章の構成力、言葉を吟味する力についてはまだ課題があるため、今後も「文章力ステップ」などを導入し、継続的に言語力向上のための取り組みを行っていく必要がある。
- 取組内容④-2 文章を読み、考え、説明する問題が苦手な生徒が多いので、次年度は、文章問題やグラフの読み取を授業に取り入れる工夫をする。
- 取組内容④-3 問題に粘り強く取り組ませるために、振り返り学習、家庭学習、日々の授業教材から、基礎の定着を今までと同様に図っていく。また外発的動機付けであっても構わないでの、自律的に問題にかかわって、問題への問い合わせをもち、解決へ変容させていく。
- 取組内容④-4 実験器具の老朽化もふまえ、継続して実験器具の点検・整備を計画的に行っていくとともに、基礎学力の定着につながる実験・観察方法の工夫をしていく必要がある。
- 取組内容④-5 音楽を表現するための基本的事項の習熟とその定着を今までと同様に図っていく。また、生徒が興味関心を持って取り組める教材の精選にも努める。

取組内容④-6 引き続き、学習の内容理解と成果の向上のため、題材に適切な教材の精選と指導方法の工夫を行っていく。

取組内容④-7 1、2年生は前期・後期制であったため、集中的に技術指導を行うことができたが、前期の授業より来年度まで半年の期間が開いてしまうので、来年度の指導において留意する必要がある。

取組内容④-8 単語習得を目標に全学年を通して授業内で積極的に日々の単語テストを行ったが定着が思うようにいかなかった。来年度では語彙力の向上を念頭におき授業でのリーディング、ライティングを積極的に行い、教科書を通して生徒の異文化への関心も高めるように努める。

大阪市立矢田西中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
① 平成28年度の校内アンケート調査で「楽しい学校生活を過ごしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B
② 平成28年度の校内アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	
③ 平成28年度の校内アンケート調査で「学校内のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 （マネジメント改革関連）	
④ 平成28年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく充実している」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 （カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連）	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。また、参加型や体験型の学習内容・方法を取り入れ、感性を高める指導を行う。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 年に1回芸術鑑賞行事を実施し、豊かな情操の育成につなげる。	
取組内容②【区分 道徳教育の推進】 規範意識の醸成、また正しい人間関係の構築に向けて、計画的に取り組む。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 道徳の時間を中心として、すべての場面で生徒が物事の善悪を判断できるように指導を行う。また、部活動を中心として、あいさつ・正しい言葉遣いを見につけるようにする。	
取組内容③【区分 問題行動への対応】 問題行動の未然防止に向けて取り組む。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）	A
指標 各学年で防犯教育を年1回実施する。	
取組内容④【区分 不登校への対応】 不登校生徒を減らす取り組みを進める。 （カリキュラム改革関連）	A
指標 月に1回程度、教職員全体で情報交換を行なう。	
取組内容⑤【区分 特別支援教育の充実】 障がいのある子どもと共に生きる意識の育成や共に成長することのできる集団を育てる取り組みを行う。 （カリキュラム改革関連）	B

指標 特別支援教育についての校内委員会を毎月1回開き、情報交換を行う。	
取組内容⑥【区分 特別活動】 生徒の自主的な運営による特別活動を推進するとともに、各行事において「人と人のつながり」や「絆」を大事にした取り組みをおこなう。 (カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)	A
指標 • 生徒会による週一回の全校集会や、月一回の生徒議会・専門委員会の自主的な運営をおこなう。 • 文化祭・体育大会において、「人と人のつながり」や「絆」を大事にした取り組みをおこなう。	
取組内容⑦【区分 キャリア教育の推進】 生徒一人一人が、将来の生き方を考える力を養う取り組みを行なう。(カリキュラム改革関連)	B
指標 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施する。	
取組内容⑧【区分 国際社会に生きる子どもの教育の推進】 子どもたちが自らの民族の歴史や文化・伝統を尊重し、自己の確立を図ることで、多様な文化を理解し、共に生きていく国際人としての資質や能力の育成に努める。 (カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)	A
指標 日本の文化および韓国・朝鮮の文化に触れる取り組みを各学年1回実施する。	
取組内容⑨【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 生活指導上の問題の解消に向けて、家庭や地域との連携を推進する。 (カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)	A
指標 每月1回、青少年指導員との合同巡視を行なう。	
取組内容⑩【区分 防災教育の推進】 生徒・教職員の防災意識の向上に努める。 (ガバナンス改革関連)	A
指標 地域と協力して、防災訓練で消火・救助・救命の体験活動等を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 原爆についての学習を中心平和学習を行った。親子ふれあい人権学習での場亮さんの感動の名場面集を含む講演を聴いた。杜子春の劇を鑑賞し人間にとって大切なものを学んだ。他の様々な取組を通して人権尊重の精神を育てる人権教育を行った。	
取組内容② 道徳の年間教育に基づいて各学年に応じた道徳教育を進めた。 教育センターの指導員芝田育朗先生をお招きして、教職員の道徳の研修を行った。 校内においても道徳の研究授業を行うことができた。	
取組内容③ 一学期に全生徒を対象とした携帯教室を行なった。また、1学期の終業式には、東住吉警察署による夏休みの注意などの警察講和を行った。	
取組内容④ 各担任で、不登校生徒・保護者に対してこまめに連絡や家庭訪問を行ない関係を作ってきた。また、担任以外でも家庭訪問を行ない学年・学校全体で関係づくりに務めた。そして、学年会や主任会で生徒の様子を報告し、全体に共通理解を図った。	
取組内容⑤ 障がいのある子どもと共に生きる意識の育成や共に成長することのできる集団を育てる取り組みを行った。スクールカウンセラーの方と連携して特別支援教育の校内研修を実施した。校内委員会で生徒の状況や課題について話し合い、共通理解を図ることができた。	

- 取組内容⑥ 体育委員や文化委員と生徒会と一緒に運営することで、体育大会・文化祭が無事に開催し成功することができた。また、生徒一人一人に達成感を覚えることができた。
後期生徒会も全校集会や執行委員会などの運営に努力している。そして、2月・3月の取り組みに向けて日々活動を行っている。
- 取組内容⑦ 1年生は3学期の職場訪問に向けて、職業調べ・訪問先の事業所調べ・マナー講座を事前学習として取り組んでいる。
2年生は6/30・7/1の2日間、職場体験を行った。事前学習として調べ学習・あいさつ訪問を行い、まとめ学習に取り組んだ。
3年生は進路選択に向けて進路講話を行った。
- 取組内容⑧ 1学期は3年生、2学期は2年生、3学期は1年生と、それぞれの学年で国際理解教育を行った。また、文化祭では三中合同でサムルノリの舞台発表を行うなど、充実した活動を行うことができた。
- 取組内容⑨ 青少年指導員との毎月の巡視を率先して行なった。
- 取組内容⑩ 9月に2年生防災訓練を地域・消防・区役所と連携して実施、12月に矢田西地域の防災訓練に1年生が参加。生徒アンケートで94%が防災について学ぶ機会があると回答した。

次年度への改善点

- 取組内容① 人権教育の年間指導計画の見直しをする。地域や外部での多種多様な研修会など学びの場に参加することや、校内研修会をすることにより、人権教育を押し進めていく。
- 取組内容② 道徳教育全体計画別葉の作成と道徳教育の年間計画の見直しをする。読み物教材を使った道徳の授業を積極的に推し進めていく。道徳の教科化に向けて評価のありかたについて校内で検討していく。
- 取組内容③ 携帯教室は、年々実施校が増え、予約が取りにくくなっているため、4月末には予約を入れるようにする。また、2学期に予定していた防犯教室が警察側の諸事情により開催できなくなったので、次年度は、日程等に気を付ける。
- 取組内容④ 次年度も学年・学校全体で教職員が共通理解を図れるように、学年会や主任会で報告する。また、家庭訪問などの関係づくりを学年全体で行っていく。
- 取組内容⑤ 各学年に応じた特別支援教育を積極的に進めていく。特別支援を必要とする生徒の力を充分に伸ばしていくような支援の方法について検討していく。
- 取組内容⑥ 様々な取り組みにおいて、教員も分担して仕事ができるようにしていきたい、少しでも生徒会の活動を活性化できるようにしていく。
- 取組内容⑦ 次年度以降継続してキャリア教育が実施できるよう、資料を整理し、次年度の学年集団に引き継ぎができるよう努める。

取組内容⑧ 来年度は結集生徒が増える見込みなので、ソンセンニムとや矢田7校の連携をより円滑にし、さらに充実した活動を行えるよう支援する。

取組内容⑨ 次年度も、青少年の青指巡視に参加する。

取組内容⑩ 次年度も引き続き、自助・共助の実践ができるように、地域・消防署・区役所と連携していく。

大阪市立矢田西中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【視点 健康・体力の保持増進】			
① 平成28年度の校内アンケート調査で「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	B		
② 平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、全国平均を上回る。 (カリキュラム改革関連)			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容①【区分 体育科の授業の充実等】 集合整列、準備運動など授業規律を確立し、運動の楽しさだけでなく、体力や健康への関心を高め、体力の向上を図る。	B		
指標 スポーツテストを年1回実施し、各個人の体力、運動能力を把握させる。			
取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】 健康な生活が送れるように計画的に指導を進める。	A		
指標 「保健だより」等を通じて、積極的に情報発信に努める。			
取組内容③【区分 食育】 食に関する興味・関心を高めるよう計画的に指導を進める。	B		
指標 食育に関する指導を各学年で年間1回取り組む。			
取組内容④【区分 健康に関する現代的課題への対応】 健康な生活が送れるように計画的に指導を進める。	B		
指標 喫煙・飲酒・薬物乱用の害について、各学年で年間1回取り組む。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
取組内容① 1学期に全学年でスポーツテストを実施し、各生徒に結果を返し、各個人の体力・運動能力を把握させた。今年からは、体育の時間以外に総合の時間に全教員の協力を得て縦割りの体制でスポーツテストを実施した。			
取組内容② 保健だよりの定期・号外の発行を中心に、情報発信をつとめている。			
取組内容③ 1年では「朝食」、2年では「食事のマナー」の指導を行った。今後、3年の「食への感謝」の指導を行う。			
取組内容④ 1年では「喫煙」、2年では「飲酒」、3年では「薬物乱用」の指導を行った。			

次年度への改善点

取組内容① 次年度以降も縦割りの体制でスポーツテストを実施できるよう、実施方法・実施体制を精査し、資料の整理に努める。

取組内容② 生徒の興味・関心を高めるようさらに工夫し、生徒がさらに参画できる指導方法について検討する。

取組内容③ 今後も継続して指導を行い、校内アンケート調査で「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える生徒の割合が85%以上となるよう、内容の充実に努める。

取組内容④ 今後も継続して指導を行い、生徒の興味や関心を高める。

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・校内アンケートによると、学校は落ち着いて学習できる環境になっており、学校行事や様々な教育活動が充実していることがわかる。特に、「学校のきまりを守っている」「決められた服装を守っている」「学校生活において時刻を守っている」と答える生徒が 90% 以上であることは高く評価できる。
- ・学力・体力についてはまだまだ課題はあるものの、年々向上していることがうかがわれる。全国や大阪府平均をこえる科目も出てきた。目標を達成できるよう、さらなる工夫や努力を続けてもらいたい。
- ・家庭での学習は大きな課題である。家庭でのスマホやゲームの使い方、睡眠、朝食なども改善点であり、家庭への働きかけが必要である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標 : 【視点 学力の向上】

- ①平成 28 年度の全国学力・学習状況等調査や大阪府チャレンジテストにおける平均正答率で、大阪府平均との比率（対府比）が前年より上回る。
- ②平成 28 年度の校内アンケート調査で「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を 80% 以上にする。
- ③平成 28 年度の校内アンケート調査で「家庭学習の習慣ができている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を 80% 以上にする。

- ・3 年生の全国学力・学習状況調査や大阪府チャレンジテストの結果は、概ね昨年度を上回っており、目標の達成に近づいたと考えられる。ただし、英語力の向上には力を入れてもらいたい。
- ・教員の研究授業を活発に行い、各教科で基礎学力を身につける工夫をしている。そのため校内アンケートで 93% の生徒が「先生は授業の内容や教え方をいろいろ工夫している」と回答している。生徒たちが「わかる」ことに徹底的に追及してもらい、「授業がわかる」の回答が 8 割以上になるよう努力してもらいたい。
- ・学校で残って学習する生徒が多く、先生に対する信頼も高いのは評価したいが、一方で、高校に進学後も自主的に学習できる力もつける必要がある。家庭学習の向上に向けた手立てを考えなければならない。
- ・中学校教員による小学校理科専科を活かして、より小中連携、一貫教育を進めてもらいたい。

年度目標 : 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成 28 年度の校内アンケート調査で「楽しい学校生活を過ごしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と回答する生徒の割合を 90% 以上にする。
- ②平成 28 年度の校内アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。
- ③平成 28 年度の校内アンケート調査で「学校内のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。

④平成28年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく充実している」の項目について、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

- ・体育大会や文化祭などの学校行事で生徒たちががんばっている姿は素晴らしい。「絆」や「人のつながり」を大切にし、連帯感を感じさせる。
- ・校内アンケートから生徒たちの規範意識の高さがうかがえる。生活指導をはじめ、人権や道徳の学習など様々な場面で「ルールを守ること」「人間を尊重し相手を思いやること」などを大切にしている成果だと思う。
- ・校内アンケートでは、進路や生き方、人権やいろいろな立場の人に対する理解、命の大切さ、食育や健康、防災や自助・共助など、教科外の大切なことについて90%以上の生徒が学んでいると回答している。
- ・学校で「自分にはよいところがある」という気持ちをもっと高めることができれば、「学校が楽しい」と回答する生徒も増えるのではないか。勉強や部活等でもっと自信を持たせることが大切である。

【視点 健康・体力の保持増進】

①平成28年度の校内アンケート調査で「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「あてはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

②平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果で、全国平均を上回る。

- ・全国体力・運動能力等調査の結果をみると、女子は全国を大きく上回り、男子も持久力の改善がみられる。体力や健康への関心も低くはなく、健康教育や食育などの取り組みについて一定の成果がみられる。
- ・引き続き、家庭への働きかけも含め、食育や生活習慣の改善を推し進めてほしい。

3 今後の学校運営についての意見

- ・部活動について、小規模校の困難さは十分理解できるが、工夫して部活動の継続、活性化を図ってほしい。
- ・図書館については、図書館補助員や学校元気アップも活用しながら、図書の整理や利用向上に向けて取り組んでいる。もっと生徒の意見も取り入れて、さらに利用向上、読書量の増加につとめてもらいたい。
- ・ホームページ等による学校の情報公開につとめている。今後もより小中・地域との連携を深めて、地域・保護者に開かれた信頼される学校づくり、地域防災の人材育成を担う学校づくりを目指してもらいたい。

**平成28年度
(2016年度)**

「運営に関する計画」

【添付資料】

- 全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状（様式4）
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった現状（様式5）
- 児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状（様式6）

大阪市立矢田西中学校

全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

1 平成28年度の調査結果の概要

	国語		算数・数学	
	A問題	B問題	A問題	B問題
平均正答率(%)	71.8	63.9	61.7	43.2
平均正答数(問)	23.7／33	5.7／9	22.2／36	6.5／15
平均無解答率(%)	4.3	3.9	4.4	15.7

2 自校の取組の成果と課題

調査項目		成果と課題
国語	A問題【主として「知識」に関する問題】	国語 Aだけが正答率で大阪市平均を下回った。領域別では「書くこと」以外の領域で大阪市平均を下回り、無答率も大阪市平均より高かった。特に「読むこと」は全国から5ポイント以上下回り、漢字を書く問題の正答数も少なかった。しかし昨年度から比べると各領域で全国との差が小さくなっている、習熟度別授業や基礎基本の徹底の成果が少しずつあらわれている。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	全国には及ばないが大阪市・府平均は上回った。無答率も全国より低かった。領域別では「読むこと」が大阪市平均を上回っているが、「書くこと」が全国から8ポイント下回っており、記述式の問題の正答数が少ない。基礎的な語彙力を育てるとともに、自分の考えを表現する力を育てる必要がある。
数学	A問題【主として「知識」に関する問題】	全国には及ばないが大阪市・府平均を上回った。無答率も全国から2ポイント低い。領域別では「数と式」と、昨年度課題だった「図形」で全国を上回った。「関数」は大阪市平均を下回ったが、昨年度と比べると全国との差が小さくなっている、習熟度別授業や基礎基本の徹底などによる成果があらわれた。しかし「資料の活用」は全国から5ポイント以上下回っており課題である。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	全国には及ばないが大阪市・府平均を上回った。無答率も大阪市平均より低かった。領域別では「数と式」「関数」で全国平均を上回っており、基礎基本の徹底を図って取り組んできたことの成果があらわれている。一方で「資料の活用」は全国から8ポイント下回っており、Aと同様、資料や文章を読み取り、数学的な思考を活用する力に課題がある。
児童生徒質問紙	<p>《国語》 「国語が好き」「国語の授業の内容がよくわかる」の設問では全国・大阪市からやや低かったが、「国語は大切」「国語は将来役に立つ」の設問は非常に高く、学習意欲は高いといえる。一方で授業の中で言語力や思考力・判断力を活用させることが課題である。</p> <p>《数学》 「数学は好き」の設問はやや低かったが、「数学は大切」「数学の授業の内容はよくわかる」「数学ができるようになりたい」「数学は将来役に立つ」「諦めずにいろいろな方法を考える」「もっと</p>	

	<p>簡単に解く方法がないか考える」の設問は高く、学習意欲は非常に高い。一方で授業の中で公式や規則性を見出すような思考力・判断力を活用させることが課題である。</p> <p>《基本的生活習慣・自尊感情・規範意識》</p> <p>毎日の朝食、就寝時刻、携帯・スマートホンの使用時間等、生活習慣に関わる設問は課題として顕著である。自尊感情については何かをやり遂げるうれしさや先生に認められていることを感じている生徒は多いが、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答する生徒が6割に満たない。一方で「学校の規則を守っている」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と回答する割合は全国よりも高く、規範意識は高い。</p> <p>《家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成》</p> <p>学校外での学習、家庭学習、読書についての各設問については、全国や大阪府平均の半分ほどしかなく大きな課題である。学びの質や言語力に関わる設問については、ほとんどが低調な結果といえ、基礎基本を徹底するだけでなく、思考力、判断力、表現力とそれにつながる言語力の育成や、生徒が主体的に学ぶ授業改善が必要である。</p>
学校質問紙	<p>以前の「荒れ」からの克服のため、学校全体として授業規律と基礎基本を徹底したり、教員との信頼関係を重視し、放課後や長期休業中の補充的な学習サポートを積極的に実施し、学校行事・部活動を通して達成感や自尊感情を高めることに力を入れてきた。また学期ごとに研究授業週間を設定し、全教員が研究授業・授業公開をおこなう等、校内研修の活性化にも取り組んできた。これらは学校質問紙、生徒質問紙の結果からもあらわれている。今後は多様な授業形態を工夫したり、ICTを活用して、思考力・判断力・表現力・言語力の育成や学びの深化・充実に取り組んでいかなければならない。</p>
その他	<p>本年度の調査では学習塾に通っていない生徒の割合は突出して高かった。また「先生はわかるまで教えてくれる」という設問で「当てはまる」と回答する生徒の割合も全国に比べてもはるかに高い。自宅で学習することは苦手であるが、学習意欲は高く、教員や仲間を信頼して多くの生徒が学校で学習している。これは本校のよさであり、成果である。そのうえで、自分で計画的に学習する力についていく必要がある。</p>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果から明らかになった現状

1 平成28年度の調査結果の概要

	種目別平均									合計得点
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	
男子	28.92	30.29	47.70	51.17	385.0		8.04	166.79	18.52	41.05
女子	22.33	23.50	47.17	47.63	279.5		8.59	155.63	14.67	59.96

2 自校の取組の成果と課題

成果と課題
男子は合計点で全国には及ばないものの大阪府平均を上回った。上体起こし、長座体前屈、持久走は全国を上回り、筋力・持久力・柔軟性に一定の優位性がみられる。一方で、立ち幅跳びとハンドボール投げは府平均を下回り、瞬発力に課題がある。粘り強さがあるが、タイミングよく力を出すことが苦手といえる。
女子は今年度も合計点でも全国を上回った。長座体前屈、反復横跳び、持久走、50m走、ハンドボール投げが全国を上回り、昨年度課題だった柔軟性の運動も改善された。一方、握力と立ち幅跳びが大阪府平均を下回った。
男女ともに立ち幅跳びの記録が低く、瞬発力を身につけさせることが必要である。
男女ともほとんどの種目で昨年度を上回った。特に女子はここ数年ずっと全国平均を上回り、着実に体力・運動能力の向上が図られている。男子も今年度は長座体前屈や上体起こしは全国平均を大きく上回り、多くの種目で府平均を超えた。また男女とも、総合評価でD・Eの割合が全国よりも少なく、運動が苦手な生徒の体力・運動能力も上がってきている。
質問紙調査からみると、運動や健康に対する関心・意欲は高く、保健体育の授業や体育的行事にもしっかりと取り組んでいることがわかる。これまでの取り組みが一歩一歩確実に成果としてあらわれている。
今後も、運動の奨励、体育大会や球技大会・駅伝大会等の体育的行事、保健体育の授業で基礎的な体力・運動能力の向上を図る工夫、部活動の活性化に取り組むとともに、学校の課題として捉えている朝食の重要性や基本的生活習慣の確立に向けて引き続いて取り組んでいく。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	生徒の規範意識は高く、概ね落ち着いた状況で学校生活を送っており故意性のある問題行動はほとんどみられない。
②いじめの状況等	「からかい」の部分が多く、アンケートや担任・部活顧問等に申し出たあと直ちに対応し、指導や見守りをした結果、現在すべてが解消している。ネット上でのいやがらせもあり、さらに情報モラル教育も含め人権教育をすすめていくとともに、解消した件についても継続して注意を払っていく。
③小・中学校における不登校の状況等	学級担任の働きかけ、家庭訪問だけでなく、子ども相談センター、スクールソーシャルワーカー等と連携して取り組んでおり、少しづつ改善がみられる。今後も家庭の協力も得ながら改善を図っていきたい。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること